

令和7年度慶尚北道青少年サマーキャンプ報告書

叡啓大学2年 菊地美乃

このサマーキャンプを通して韓国の文化だけでなく、インドネシア・タイ・中国・ベトナムなど様々な国の文化を学んだ。また、文化交流とともにかけがえのない友人たちが各国にできた点において非常に価値のある経験であった。

慶尚北道に滞在した1週間、歴史のある建物を訪れたり、韓国の伝統料理を頂いたりして韓国での日々は非常に実りの多い経験であった。特に、韓国の伝統衣装を身にまとい、慶州にある史跡瞻星台を訪れたときにはかつての雰囲気を感じながら歴史を学ぶことが出来た。

また、安東民族博物館では、生まれるときから亡くなる時まで冠婚葬祭についての文化資料が多く展示されていた。今の韓国における文化がどのように形作られてきたのかについて深く学ぶことができた。そして、日本と韓国における宗教観には通づるものを感じた。似ている中にどのような違いがあるのか確かめるために、教授たちにも積極的に質問し、より一層深く学べるよう尽力した。

伝統文化だけでなく、現代産業についても学ぶことができた。風力発電所を見学しに行った際に、韓国の電力の大半は輸入で賄われていることを知った。エネルギーの供給が国際的に大きな問題であることを再度理解することができた。また、サムスンの発展に関する展示を見学した。常に持ち歩いている携帯電話がどのように発展したか学ぶことは非常に興味く、さらに、これからのスマートフォンがどのように形を変えていくのか、AIとともに発達していくことによってどのような機能が追加され、発展していくのかについて楽しみにしている。

この経験を踏まえて、今後の展望について述べる。語学力と国際感覚のさらなる向上を目指し日々、勉強に励んでいく。そして、将来的には国際的な架け橋となる活動にこれからも携わっていききたい。今回の経験を通して、多様な文化や価値観を持つ人々が交流し協力することの重要性を実感した。将来は地域と世界をつなぐ役割を担い、国際協力や地域の国際化に貢献できる人材へと成長していききたい。

また、このプログラムで学んだことを、次の世代にもつなげていきたい。そのために、自分自身が行っているワークショップなどで、体験を共有し、国際理解の輪を広げていきたい。今回得た気づきや縁を自分だけのものにせず、多くの人々と分かち合うことが、派遣事業に参加させていただいた責任だと感じている。そして、ここで得た縁を途切れさせないよう大切につないでいきたい。

最後に、このような貴重なプログラムを企画・運営していただいた慶尚北道政府とカトリックサンジ大学、そして派遣の機会を与えてくださった広島県国際課の皆様へ、深く感謝申し上げます。